

インフォシス、日本企業向け“India in a box”を発表

インド市場に必要な業務プロセスを8週間で導入

2012年11月19日(東京、バンガロール)：コンサルティングとテクノロジーのグローバル・リーダー企業であるインフォシスは、本日、日本企業向け新ソリューション「India in a Box」を発表しました。マイクロソフト社Dynamics NAVをもとに開発された本ソリューションでは、日本企業がインドで事業展開を開始するためのITインフラストラクチャを8週間で導入できるため、ビジネスを大幅に拡大すると共に市場に参入するまでの時間の短縮も実現します。

「India in a Box」は、成長するインド市場でビジネスをスタートさせる日本企業の抱える様々なニーズに対応し、会計、税金処理に関してインド独自の業務プロセスが組み込まれたパッケージ・ソリューションです。その主要な機能は次の通りです。

- 財務管理：国際会計基準委対応すると共に、インド会計基準にも準拠。一般会計、売掛・買掛管理、予算管理、固定資産管理、決算処理等
- サプライチェーンマネジメント：販売、購買、在庫、倉庫管理
- 生産管理：生産管理（BOM、MRP）、製造オーダー作成、生産計画、スケジューリング、生産工程
- サービス・リソース・プロジェクト管理：サービス契約、アイテム、契約、サービス・リソース管理。ジョブ・モジュールによりプロジェクト、コスト、マイルストーン、予算・実績の比較を実現。
- 従業員管理：従業員マスター、連絡履歴、スキル、勤怠情報
- 顧客管理：顧客情報、連絡先情報、支払条件、納品条件

「日本企業が海外に進出する際、拠点のシステム構築を現地法人に任せることで、本社からのITガバナンスが実現しにくい現状が続いていました。益々加速する日本企業のアジアシフトに対して、このソリューションの活用によりインドで短期間のビジネスモデル構築が可能となり、ITガバナンスの強化のみならず「見える化、業務標準化、IFRS対応」などがオールインワンで可能となります。」（日本マイクロソフト株式会社 Dynamics ビジネス本部 本部長 中西智行様）

「日本企業のインド進出は年々加速しています。海外に拠点を立ち上げた場合、ローカル市場に対応したシステム導入には時間がかかります。たとえローカルシステムを立ち上げて、本社の基幹システムとの連携がうまくいかず、東京側の本社役員が日次で全世界の売り上げ、生産管理を行うことができません。このIndia in a Boxを導入していただければ、本先に導入済みのERPと容易に連携がとれ、日次で全世界から送られてくる情報を有機的に活用することで、本社役員はリアルタイムな意思決定とガバナンスを実現することができるでしょう。」（インフォシス・リミテッド日本代表 V.スリラム）

インフォシス日本支店について

1997年東京に支店が開設されたのち、日本企業のイノベーション促進、海外進出のテクノロジーサポート、インドの当社リソースを活用した世界的な規模でのシステム開発（グローバルデリバリーモデル）をお客様にご提供してまいりました。東京、名古屋に拠点を構え、200名の社員を抱えます。 www.infosys.com/jp

インフォシスについて

当社は15万3000人の従業員を擁し、グローバル企業の革新主導型成長を支援することでForbes社による「最も革新的企業100社」の19位にランクされています。当社は次世代型のコンサルティングからテクノロジー、エンジニアリング、アウトソーシングまで幅広いサービスを提供して世界30カ国以上のお客様に未来企業を目指すお手伝いをしています。当社（NASDAQ：INFY）に関する詳細は当社Webサイトをご覧ください。www.infosys.com

お問い合わせ先：

インフォシス日本支店連絡先
マーケティングマネージャー
安藤 穰 jo_ando@infosys.com